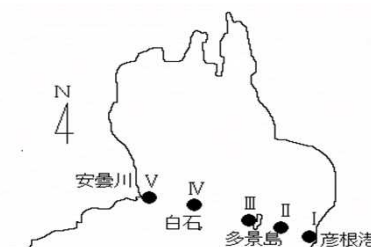


琵琶湖定点定期観測結果速報(令和2年7月)

数値は速報値であり、確定値ではありませんので、ご留意下さい。

調査年月日 令和2年7月13日

調査地点 彦根市～高島市安曇川町に至る5地点
(ただし、湖岸水温は彦根市八坂町
滋賀県水産試験場地先における測定値)



調査地点図

調査結果

平均値 … 5地点の平均値

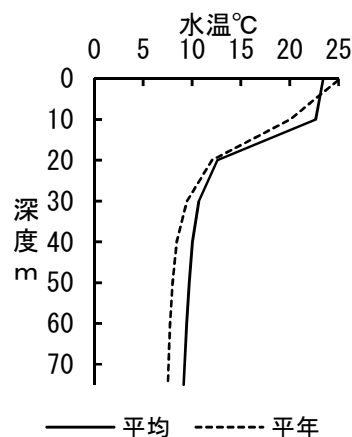
平年値 … 透明度、湖水温、湖岸水温、プランクトン沈殿量は1981年～2010年(昭和56年～平成22年)の同時期調査の平均値

DO(溶存酸素濃度)は2010年～2019年(平成22年～平成31年)の同時期調査の平均値

1. 透明度 7月平均値 3.7m 平年値 4.9m

2. 湖水温 (°C)

深度 (m)	7月平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
0.5	23.4	24.9	-1.5
10	22.7	20.0	+2.7
20	12.6	12.0	+0.6
30	10.7	9.5	+1.2
40	10.0	8.4	+1.6
50	9.7	8.0	+1.7
60	9.4	7.7	+1.7
75	9.1	7.5	+1.6



3. 湖岸水温 (°C)

月(旬)	平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
6月下旬	23.3	21.7	+1.6
7月上旬	23.6	23.3	+0.3
7月中旬	23.8	24.8	-1.0

4. プランクトン沈殿量 (ml/m³)

水層 (m)	7月平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
0~10	20.4	16.0	+4.4
10~20	3.7	4.4	-0.7
20~40	0.9	1.7	-0.8
40~75	0.3	0.6	-0.3

(プランクトンネットNXX14使用)

5. 表層のプランクトン優占種

○プランクトンネットNXX14による採集(植物:未固定 動物:5%中性ホルマリン固定)

植物プランクトンについては、全ての地点で*Mougeotia sp.*(ヒザオリ属:緑藻)および*Fragilaria crotonensis*(オビケイソウ:珪藻)が細胞数で最も多く確認された。

動物プランクトンについては、全ての地点で*Eodiaptomus japonicus*(ヤマトヒゲナガケンミジンコ:甲殻類)とCyclopidae(ケンミジンコ科:甲殻類)を含むカイアシ類のノープリウス期およびコペポデイド期幼生が多く確認された。



Mougeotia sp.



Fragilaria crotonensis



*Eodiaptomus japonicus*の
ノープリウス期幼生



*Eodiaptomus japonicus*の
コペポデイド期幼生

6. DO (溶存酸素濃度 : mg/L)

深度 (m)	7月平均値		平年値		平年差	
	DO	(酸素飽和度%)	DO	(酸素飽和度%)	DO	(酸素飽和度%)
0.5	8.79	(105.4)	9.25	(116.2)	-0.46	(-10.8)
10	8.33	(99.6)	9.14	(103.9)	-0.81	(-4.3)
20	8.41	(81.2)	8.73	(84.3)	-0.32	(-3.1)
30	8.80	(81.8)	9.32	(84.2)	-0.52	(-2.4)
75	5.99	(53.6)	7.06	(60.9)	-1.07	(-7.3)